

平成24年度 事務事業評価シート

※平成23年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	学校体育施設の開放				継続				
コード	27	-	23	-	02	-	00	予算事業名	学校体育施設の活用
担当部署	文化スポーツ部	スポーツ振興課	スポーツ健康担当	予算事業コード	会計 10	款 02	項 01	目 19	

1. 事業の位置付けと関連計画等

第三次川越市総合計画後期基本計画における位置付け 位置付けなしの場合 法令による実施義務 義務ではない

基本目標(章)	2章	学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐくむまち	根拠となる法令、条例等	なし
方向性(節)	5節	生涯スポーツの推進	個別計画等の名称	第二次川越市生涯スポーツ振興計画
施策	1	生涯スポーツの推進		
細施策	4	学校体育施設の活用		

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	学校体育施設を開放し、市民に対し、身近な場所で気軽にスポーツを楽しめる場所を提供する。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	学校体育施設(体育館、運動場、武道場)の開放は、各学校に開放委員会を設置し、運営管理を委託している。霞ヶ関北小学校プールの開放は、業者に業務委託している。学校プール開放(地域開放)は、市が事業を行なっている。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		13,855	13,803	13,174	11,550	11,480	
事業費	A	13,411	13,145	12,036	11,092	11,480	11,480
	B	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700
総コスト(C=A+B)		17,111	16,845	15,736	14,792	15,180	15,180
正規職員(1年間の従事人数)		0.50人	0.50人	0.50人	0.50人	0.50人	0.50人
臨時職員(1年間の従事人数)							
国県支出金	D						
その他特定財源	E						
市の財政負担(=C-D-E)		17,111	16,845	15,736	14,792	15,180	15,180

※24年度、25年度の事業費、人件費は見込額
※臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

成果	中心指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	指標の定義
成果	学校体育施設の利用者数	人	433,269	455,186	396,728	402,752	各小中学校体育施設の利用者の総延べ人数
成果	霞ヶ関北小プール利用者数	人	3,234	3,263	4,279	3,507	霞ヶ関北小プール開放日の利用者の総延べ人数
成果	学校プール利用者数	人	217	234	111	186	3つの小学校で2日間プールを開放し、利用した人の総延べ人数
活動	学校体育施設開放数	校	53	53	52	52	体育館、運動場、武道場を開放した小中学校の数

中心指標の考え方 本事業は、成果指標を中心に評価する。

指標に基づく評価 スポーツ施設を利用したいという要望は高い。開放学校施設の利用者も多く、施設の有効活用がなされている。

5. 事業の実施を通じた分析・評価

(1) 現在の課題と状況	効率性に課題 公平性に課題
開放学校施設の開放事業は、学校毎の運営委員会に委託しているが、利用希望者が毎年増え、開放校によっては飽和状態となっている。また、利用料金は無料であるが、受益者負担という点で検討する必要がある。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	学校体育施設の開放は、学校単位で市内全域で開放している。市で管理しているスポーツ施設も少なく、廃止、縮小の場合、市民がスポーツに親しむ場がなくなり、生涯スポーツを推進することが困難となる。
(4) 所属長自己評価(今後の方向性)	継続
学校体育施設は有効に活用されており、市民のスポーツに対するニーズを満たす役割を果たしている。地域スポーツを支える面もあり、今後も事業を推進していく。	